

めえめえこやまども園



〔園舎・砂場・遊具等〕



〔ジャングラミング・ブランコ・うんてい等〕
(安田メソッド)



〔第2園庭・世界に一つ「めえめえこどもの家」HAGS・滑り台・砂場2つ・ガチャポンプ等〕

理念 ひとりひとりの子どもを大切に育てる

基本方針 個々の発達の保障をして、情緒の安定した生活ができる環境を用意する。
体験を通し豊かな創造・想像する力を育てる。

乳児(0～2歳、3～5人)は育児担当制でゆっくりと子どもと関わり、
幼児(3～5歳、2G)は異年齢混合の主体的に遊ぶ環境で保育を行います。

園行事の考え方として運動会・劇場ごっこ(生活発表会)等があります。日々の保育で伝統的又は、伝承(母の日・父の日・七夕・夏祭り・月見・もちつき・節分・桃の節句・端午の節句など)や個人の誕生を祝うことを生活の一つとして負担なくします。幼児クラスになれば、仲間と喜びを分かち合うことが可能になります。乳児では大人との関係の中での生活中心になりますので集団としての行事に参加することは子どもの負担にもなりますのでしません。しかし参加はしなくても雰囲気は感じる事は大切と考えています。

幼児になって行事に参加できることが、喜びとして感じられ、生活の一部としての行事で在りたいと願っています。

0 歳児クラス

0 歳児の子どもは生理的なもの（食べること、眠ること、排泄すること）が生活の基本になります。家庭でも同じですが、たつぷりと眠れて、しっかりとご飯を食べてこそ子どもは快適に過ごすことができます。その為にも保護者の方と協力しながら規則正しい生活リズムを作っていきます。

育児担当制

集団の中でひとりひとりの育ちを保障していくということは、親の手から離れて過ごす子どもと保育士がどのようにして保育士と同じ様な信頼関係が結び合っているかということが課題になります。子どもにとってお母さんは“ひとりだけ”オムツをかえるのも、食事を与えるのも、寝かせるのも育児をするのはほとんどお母さん。保育園でも誰もがするのではなくて、生活に関わることを一人の大人が担当することで信頼関係（母子関係のような）を作っていきます。

食事

5 ヶ月頃より離乳食が始まります。大人に抱かれて1対1で食べて、ミルクも同様です。一人ひとりの子どもの発達状況を把握した上で個人差を考慮しながら進めていきます。子どもが意欲的に食べることができ、楽しい食事の時間をすごせるように心がけています。



排泄

月齢が上がると、おむつを交換する時お尻を上げてくれたり、ズボンをはく時足を上げてくれたり大人のする事に協力してくれるようになります。「上手に足上がったね、オムツかえやすいよ」など、コミュニケーションをとりながら育児に参加してくれるよう言葉をかけています。



遊び

うつ伏せ、寝返り、這い這いなど全身を使った遊びからチェーンリングなどを入れたり出したりする手先を使った遊びなどもみられます。一人一人発達に合わせた遊びを取り入れています。

1 歳児クラス



食事

ほとんどの子どもが椅子に座り自分で食事を食べることができるようになります。スプーンを使って自分で食べられるようになり、大人はすくにくい物を切るなど補助の役割に徹するようになります。



排泄

1 歳半頃よりトイレで排泄が始まります（個人差はあります）。おしっこがでたというサインを大人に表し始めます（もぞもぞしたり）。始めはトイレで便器に座り、便器に慣れることから始めます。徐々におしっこがトイレで出るようになります。嫌がる時は無理にさせず、トイレで成功したらたくさんほめてあげるようにします。



遊び

歩き方は安定し、一人で立ち上がったたり正座をしたりと姿勢をさまざまに変えて遊びます。手先の細かい動きも発達し、積み木を積んだり並べたりすることができるように、こういった発達に合った道具やおもちゃをたくさんお部屋に用意して成長発達の助けとなるように進めていきます。



感情

“自分”という自我の意識が芽生えてきます。その分自分のやりたい事が通らないと葛藤がでてくるのもこの時期の特徴です。子ども同士おもちゃの取り合いになることもしばしばでてきます。そんな時「〇〇ちゃんが使っていたから、あなたは違うかわいいのを取りにいこう」と、言葉だけでなくその子が分かるような形で説明していくよう心がけます。

2 歳児クラス



遊び（一人遊びから二人遊びへ）

まだ一人で遊ぶことが中心ですが周りの友達と関わることの楽しさが少しずつわかってくる時期です。お店屋さんごっこの店員さんとお客さんなど二人での遊びもみられるようになってきます。大人が店員さんの役割がどのようなことをするのかのモデルを示したり、使用する物の名前や用途を伝えていくことも大切です。このような遊びを体験することで使った物は元に戻す、物を貸してほしい時は「かして」と言い「いいよ」と言われたら借りるなどのルールを学んでいきます。



食事・排泄・睡眠

生活に必要な行為が身についていきます。睡眠は全員が午睡だけの1回寝になります。食事については一人で食べられるようになりこぼさなくなるのでエプロンがなくなります。排泄は、2歳の間にだいたいおむつはとれてトイレを使うようになり生活の習慣は自立へと向かっていきます。ただし、個人差はあるとその日の気分や体調によりムラがある時期でもあります。その時の気持ちを大人がくみ取って見守ったり、はげましたりと臨機応変に対応していくことを心がけています。



3・4・5歳児混合の2G（うさぎ・やぎ）

異年齢クラスのいいところ

子どもたちが異年齢で過ごすことの良いところは年長児が小さい友達をいたり、助け合うのは当然ですが年中児、年少児が年長児のしていることをしたくて真似をしたりします。そのように年長児のしていることを見ていろんな挑戦をすることで成長していきます。卒園していく年長児を人ごとではなくお兄ちゃん、お姉ちゃんの成長を心より祝うことができるとともに人間関係の結びつきの深さを感じます。子どもたちが奥深いところで関係ができていくのが一番の良いところです。

子どもが遊んでいる風景！ 子どもの学習能力（基礎的学習能力）とは、遊びを通して

☆興味を持つ☆集中する☆持続する☆想像する ことで集中力、記憶力、想像力、創造力、思考力、企画力、組織力、行動力が発達するものです。

これらの能力は幼児期の子どもは、すべて遊びを通して学んでいきます。

お部屋の中には、大きく分けて【構造】【台所】【お世話】【机上】【休息】の空間があり、子ども達は好きな遊びを自分で見つけて遊びます。



【構造の空間】

主に積み木などで、何かを作ったり構築する遊びの空間です。子どもは生まれてから立体の中で生活し幼児期になる頃にはさまざまな場所に訪れていろいろな立体物に触れる体験をしています。積み木などを使って再現して遊んでいます。



【台所の空間】

ほとんどの子どもは、お母さんが食事を作る姿をみて育ってきています。台所の空間では子ども達はお母さんになりきり料理を作ったりして遊びます。そこから発展しケーキ屋さん、お寿司屋さん、アイスクリーム屋さんなど色々な役割を増やしていき遊びながら社会を体験していきます。



【お世話をする空間】

お家でお風呂に入れてもらったり、着替えを手伝ってもらったりというような親にお世話してもらったことをお人形にしてあげて再現して遊んでいます。

	【机上の空間】 ひも通し、ゲーム、折り紙、工作など座って集中して取り組む遊びの場所です。
	【休息の空間】 子どもは遊ぶことが好きですがその時の気分や体調によって何もやりたくないとか、一人でいたいとか次に何しようかと準備期間を持つためにも休息できるソファを用意しています。ソファで本を読んだり、ごろごろしたりして次に遊ぼうという気持ちを整える時間を過ごしています。
	【わらべうた】 『わらべうた』は、他の歌に比べると音域が狭い為、子ども達にも発声がし易く遊びの1つとして取り入れています。『わらべうた』には、遊びが伴うものも多く、この運動が心臓の鼓動の様な均等な拍の動きを感じさせ、それが子どもの情緒の安定を助けてくれる役割も担っています

生活&行事の風景！

		
食育	運動遊び	夏祭り

乳児期で個人的に丁寧に育児され生活習慣が形成されることで秩序が身につきます。情緒が安定し、自律し、自立した子どもは、幼児になってより集団的な子どもに育つと考えています。自分から周りの環境に積極的に興味を持ったり参加したりします。積極的に遊びに参加しその中で学習していくものです。

		
避難訓練	園庭	第2園庭